

第66回 公益社団法人日本医療社会福祉協会 全国大会（香川大会）

【第38回 日本医療社会事業学会、平成30年度 四国ブロック医療ソーシャルワーク大会】
（H30.6.15～6.17） <サンポート高松 かがわ国際会議場 にて>

「全国大会に参加しての感想」

徳島県鳴門病院

郡 章人

6月15日～17日にかけて、第66回日本医療社会福祉協会全国大会、第38回日本医療社会事業学会、平成30年度四国ブロック医療ソーシャルワーク大会が香川県高松市のサンポート高松にて開催されました。お隣の香川県が開催地ということもあり、徳島県MSW協会の会員も沢山、参加させていただきました。

15日には、四国ブロック企画シンポジウム「対人支援職者の倫理的行動と倫理観の構造～チーム医療の推進に向けて」、 「身元保証人問題を考える」シンポジウム等が開催されました。

16日には、日本医療社会事業学会や記念講演、シンポジウムが開催されました。第6分科会（がんとソーシャルワーク）では、徳島赤十字病院の島村敏文氏による「災害エスノグラフィーを活用した研修の意義と今後の課題」についての発表、第5分科会（ソーシャルワーク実践Ⅱ）では、私、徳島県鳴門病院の郡から「看看連携を取り込んだ退院支援システムの取り組み」について発表しました。私達2人の発表に足を運んで聴いてくださった皆様、ありがとうございました。心強かったです。また都道府県協会研修担当者会議も開催され、会議には大森さん、高木さんが出席してくださいました。

会員の皆様も、それぞれ興味がある分科会や講演、シンポジウムに足を運び、他の地域や職場で取り組みされている報告を聴き、情報収集をされていたかと思います。

17日には、講演や集い企画が開催されました。集いでは「意思決定支援」、「入退院支援」、「MSWのよもやま話」、「後輩育成」、「新人の集い」、「治療と職業生活の両立支援」等があり、参加者の皆さんが他県のMSWと交流や情報共有を深めるきっかけになったと思います。「治療と職業生活の両立支援」には、徳島県立中央病院の有馬信夫氏がパネリストの1人として登壇して発表をしてくださいました。また、きたじま田岡病院の高橋さん、徳島大学病院の富永さんは、集いのファシリテーターとしてご協力をいただきました。ありがとうございました。

今回の全国大会のメインテーマは「地域まんががんソーシャルワーク」とは、“地域を包括したソーシャルワーク”という意味みたいですね。医療の現場に在って、我々、社会福祉を基盤とするMSWは、患者さんやご家族の多岐に渡る生活ニーズを充足していくために、個々の知識や技術だけでなく、さまざまな地域の人と繋がりを深めていく必要性を感じています。この全国大会に参加した得たものを、それぞれの職場、地域で少しでも活用できるものつながれば良いなと思っております。

全国大会には、徳島県から27名の参加がありました